「倉渕で夢の農業を実現」

移住者インタビュー

となみ農園 利波 浩樹さん・尚子さん

「となみ農園」は高崎市の西部、標高1449mの榛名山の山麓に位置しています。利波さん夫妻は就農のために県外から倉渕に移住し、ホウレンソウやトマトの有機栽培を軌道に乗せ、さらにオリジナルの加工品の開発にも意欲的です。

となみ農園では、中玉トマトを低温でじっくり乾燥させたドライベジタブルや、ホウレンソウパウダーを開発。有機野菜を気軽に楽しめます

利波浩樹さん　尚子さん
夫の浩樹さんは富山県出身。大学院でナノテクノロジーを研究していたが、自分の作ったものを自分で食べる、シンプルな暮らしがしたいと考え、農業の道へ。妻の尚子さんは新潟県出身で、倉渕への移住を機に、別の仕事から農家になりました。

自給自足の生活に憧れて

浩樹さんは富山県出身、大学院で精密工学を研究していましたが、自給自足のライフスタイルに憧れ、卒業後は農業を志したそうです。農業現場で勉強したいと高原レタスで有名な長野県川上村に住み込みで働き、夢に向かって第一歩を踏み出しました。

倉渕の就農プログラム「離農者ゼロ」が決め手

肥料づくりなども学びながら、就農を具体的に考えたとき、くらぶち草の会（CHECK1）の就農支援プログラムを薦められたそうです。

就農プログラムは全国各地で行われていますが、「以前、新聞記事で倉渕では就農後、離農者がいないことが紹介されていたことが決め手となりました」と浩樹さんは話します。

農業技術が向上 充実した倉渕ライフ

2007年に倉渕に移住。一年間の研修を終え、くらぶち草の会のあっせんで倉渕地域に家と農地を借りて、野菜生産をスタートしました。

自身でビニールハウスを建て、有機農法のホウレンソウを栽培。尚子さんと結婚後は、力を合わせて農業に取り組んでいます。「スムーズにスタートできました」と浩樹さんと尚子さんは口をそろえます。

工夫を重ねて技術も向上、ハウスの棟数も増え、質の高いホウレンソウを安定して生産できるようになりました。「出荷のときには、既定の重さまで、ホウレンソウを袋に詰めています。以前はたくさん束ねて入れていたのですが、今は大きく育つようになり、少ない本数で出荷できるようになりました。味も甘くなりましたよ」と、浩樹さんは話します。

くらぶち草の会の共同出荷に加え、新たな出荷先を開拓。高崎駅前の大型商業施設にも、となみ農園の野菜が並んでいます。

となみ農園ブランドで倉渕の魅力を発信

「有機栽培のホウレンソウはとても人気があります。出荷作業はママ友に手伝ってもらっています」と尚子さん。就労の場を創出するなど地域貢献にもつながっています。また倉渕の新規就農者は30軒を超え、となみ農園でも研修生が技術の習得に励んでいます。

農機具の購入に高崎市の支援制度を活用した他、6次産業化等推進事業補助金（CHECK2）を活用し、ドライベジタブルの生産にも取り組んでいます。「となみ農園のブランドを高めて、倉渕の良さをアピールしていきたい」と意欲いっぱいです。

CHECK 1 「くらぶち草の会」
榛名山の西麓、標高400～900mの「準高原」地域にあり、農薬や化学肥料に頼らない野菜作りに取り組んでいる生産者団体です。新規就農（新規参入）の支援を行っており、他産業からの新規就農者も多くいます

CHECK 2 「高崎市６次産業化等推進事業補助金」
市内で生産された農畜産物の新商品の開発と、その加工から販売までを行う取り組みに対する経費を補助する制度です